

ZONE 01  
001  
IDM  
TOKYO  
2018

「fRAum」YOKO FRAKTUR  
「fRAum」KAZUKI KUMONO  
「フラウム」ヨウコ フラクチュール/雲野一鮮  
×  
KONICA MINOLTA  
コニカミノルタ株式会社



Title: 「文字 × 空間 × 未来」

「空間における文字のインパクトと重要性」に着目し、カリグラフィーの長い歴史において、紙とインクとペンだけの世界から、この時代だからこそできる、手仕事のカリグラフィーと最先端テクノロジーの融合について表現し、世界初となる有機ELによるアートカリグラフィー作品を発表する。文字を読むという行為は光る素材特性にフォーカスし、また光る事で空間における文字の訴求力という本質を視覚的に伝達しやすくなる。「次世代の明かり」の現時点における最高技術は、今後進化が加速してデザインの世界を大きく変えていくと確信する。

ZONE 01  
002  
IDM  
TOKYO  
2018

Rubio Iwasaki  
Design Office.Inc  
株式会社ルビオ岩崎デザイン事務所



Title: Chaos- 混沌の中の小空間

計画的に詳細をイメージし、サイズを決め制作していく事が求められる空間デザインという仕事において、曖昧さや偶然性はなるべく排除し、秩序がある空間に向けての絞り込みをしていきますが、今回はこういうチャンスにしか出来ない事をやってみたいと思いました。自由に、手なりに作る秩序や規則性のない混沌としたもの。無秩序な線の集まりは、混沌とした思考のノブリスのようで、クリエイターが閃きに到達するまでの思考回路の様です。切り取られたような中心の小空間は、そこに眠る「アイデア」や「心」のようでもあります。

ZONE 01  
003  
IDM  
TOKYO  
2018

I.R.A.  
株式会社 I.R.A.  
×  
HYTNOS  
ひとのす



Title: im ~ balance

空間を構成するインテリア、内在する建築。それらが均衡した状態が日常の空間を作り出しているならば、それらが徐々にずれつつ不均衡な状態となった時、どちらにも相容れない曖昧な空間が生み出される。

ZONE 01  
004  
IDM  
TOKYO  
2018

DOG  
株式会社 DOG  
×  
Dio Chemicals, Ltd.  
ダイオ化成株式会社



Title: Network thinking

透明でも不透明でもなく半透明、視線を通したり通さなかったり、風は通したり、光は通したり遮ったり、何かから守ったり何かを守ったり、思考の中では存在せず物質としては存在する。

ZONE 01  
005  
IDM  
TOKYO  
2018

JOKE.Inc. RIKI WATANABEUR  
株式会社 JOKE. 渡辺 力  
×  
HOXAN  
北三株式会社



Title: pray

テーマは「樹木崇拝」。ツキ板の材料となる「木」は長い歴史の中で人類と共にある身近な素材であり、「神木」といった、神聖なもの、神の依り代としての側面ももちあわせております。私はそこに着目し、素材が持つ美しさや特性を最大限引き出すことで、ツキ板を気高く厳かな存在へと昇華しました。

ZONE 01  
006  
IDM  
TOKYO  
2018

BROKIS  
ブロッキス



Title: SHADOWS (シャドウ)

時代を超えたタイムレスな照明のフォルムに敬意をはらって完成したシャドウコレクションは、4種類の異なるフォルムが存在し、それらを自由に組み合わせてひとつの空間を作り出す事ができます。ネックの部分は木製になっているので、ガラスに優しい暖かみを与えてくれます。内側に隠された光源はそのフォルムをさらに強調する事でしょう。

ZONE 01  
007  
IDM  
TOKYO  
2018

extremis  
エクストレミス



Title: Bistrot (ピストロー)

今年4月のミラノサローネで好評だった Bistrot (ピストロー) は横並びで会話を楽しめる2人掛のテーブル。ロマンチックな街・パリからヒントを得て生まれた Bistrot は、道ゆく人々を眺めながらおしゃべりを楽しむのに最適な形のピクニックテーブルです。今までの extremis にはなかった新しいデザインは 'tools for togetherness' を究極的に体現しています。

ZONE 01  
008  
IDM  
TOKYO  
2018

SUPER PENGUIN  
スーパーペンギン  
×  
KINSHODO  
金照堂



Title: ARITA/2018

400年の歴史を持つ有田焼。本展示はその有田焼の「可能性」を感じていただくプロジェクトである。有田焼と言えば日本では磁器発祥の地として名高く、「白磁」の印象を持つ方も多いと思う。本出展では、一見して磁器には見えないメタリック感を持つ「Lin」と磁器を製作する際の一工程である「赤絵」をインテリア向けタイルへ変換してみた。「有田焼=インテリアタイル」の印象はまだインテリア界にはない。しかし、この挑戦と可能性を今回の展示会では感じてほしい。

ZONE 02  
009  
IDM  
TOKYO  
2018

**EIRI IWAKURA**  
岩倉榮利



Title: Takayama Wood Works/high chair

この椅子のシリーズは現代日本における新しいウィンザー・スタイルを「リ・デザイン」という手法によって作り上げたものである。笠木と挽物の支柱、H字型の貫をつけた脚のすべてを厚い木座板の上面、下面に取り付ける基本的な技術を土台に現代的かつ日本的な編集作業を通じて独自の美しさを確保している。そこに新しい素材とそれを生かす斬新な形を想像する「ものづくり」の方法があり一方で昔から引き継がれてきた様式や技術を時代や地域性、使う人々の特性に従って変化させていくこともひとつのデザイン手法であるという提言である。

ZONE 02  
013  
IDM  
TOKYO  
2018

**ISETAN MITSUKOSHI  
PROPERTY DESIGN LTD.**  
株式会社 三越伊勢丹プロパティ・デザイン



Title: 伝統と革新のデザイン × サステナブルな FSC® 森林認証材  
環境・経済・社会の3つの側面から適正に管理された木材であることを証明する FSC® 森林認証。弊社は合法的に採取された木材を、デザイン性の高い空間 / 家具に取り入れることに力を入れております。今回の作品は、昭和12年に三越家具設計室に在籍していた城所右文次氏がデザインし、当時、三越新作家具展に出品されたバンブーチェアを、デザイン設計部と六郷工場のコラボにより、実験段階ではございますが「古き良きデザインの家具を FSC® 認証材を使用して現代に蘇らせる」ということにチャレンジいたしました。

ZONE 02  
010  
IDM  
TOKYO  
2018

**T and O STUDIO**  
ティーアンドオースタジオ



Title: ん -n-

「んん?」「ん!!」「ん〜」「うん?」「うん」..... 運..hmm「ん」日本語の現代共通語では基本的に「ん」より始まる単語が存在しないとされている。日本語以外の言語においても、「ン」から始まる言葉は少ない。五十音の最後、第48位に置かれる。違和感、疑問、思考...様々な「ん」という言葉、音から想起されるいくつもの「ん」がこの作品です。

ZONE 02  
014  
IDM  
TOKYO  
2018

**Fizz Repair Works Co.,Ltd.**  
フィズリペアワークス  
×  
**Anonimo Design corp.**  
株式会社 アノニモデザイン

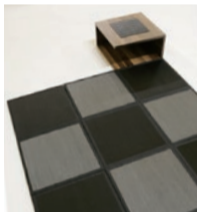


Title: Baton the Chair

この椅子はオーナーのドイツ人であるお母様が1928年に日本で結婚し大事にされてきた椅子だ。何度かの修理歴を見るところの椅子がどれだけ大事にされてきたか分かる。その思い出の椅子は80代になったオーナーが大事に引き継いだ。そんな時代を超えてきた椅子をドイツの Zimmer Rode の生地をまともせポテンシャルを引き出す。次の世代へのバトンを渡すために少しずつメンテナンスを加えながら、再起動。

ZONE 02  
011  
IDM  
TOKYO  
2018

**Ma.Cosimo**  
Ma.Cosimo (デザイナー)  
×  
**sikkui@kuichi.net**  
漆喰九一 (漆喰職人)



Title: 呼吸する壁 土壁、漆喰壁

漆喰職人の漆喰九一とデザイナーの Ma.Cosimo が土壁や漆喰壁でインテリアの新しい素材の試みを挑戦する。今回、ご縁があり漆喰九一様の仕事に感銘を受け、Ma.Cosimo が名古屋まで行きました。漆喰壁の効能は、「温度、湿度を調整」、「においやほこりがつきにくい」、「菌を寄せ付けない」等です。土壁に自然素材を加え挑戦中です。Ma.Cosimo のテーマ、日本の伝統的な自然由来の素材とハイテクをHybride / ハイブリッドした壁装材を提案し、自然由来の素材の素晴らしさを誘いたく思います。

ZONE 02  
015  
IDM  
TOKYO  
2018

**Anonimo Design corp.**  
株式会社 アノニモデザイン  
×  
**Fizz Repair Works Co.,Ltd.**  
フィズリペアワークス



Title: Baton the Chair

長いファミリーヒストリーと共に歳を重ねてきたこの椅子は、ドイツで生まれ、遠い日本へやってきたオーナーから次の世代へ引き継がれようとしている。家具のそうした本来の姿を間近に見ることができ、またその歴史的瞬間に関われる喜びを、フィズリペアワークスの技術とアノニモデザインの素材で表現する。新しいものばかりを見せるのがインテリアデザインの全てじゃない。ここで感じる、目に見えないものも大切にしたい。

ZONE 02  
012  
IDM  
TOKYO  
2018

**AD CORE DEVISE INC.  
NOBORU SETO**  
株式会社 エーディオア・デバイス  
瀬戸 昇



Title: NEO CLASSICO 022-MODEL

落ち着いたデザインと上質な質感を実現したラウンジチェア。シンプルでデザインの見え目はわからない内側は、人間工学に基づいた快適な座り心地を木フレームに表現しています。その構造とクラフトマンのハンドメイドの仕上げが張りのある座り心地を提供します。今回は、その普段は見ることのできないこだわり抜いた構造を展示。美しいもの、時代のトレンドに流されないもの、グローバルな視点をもつもの、永く使う事ができるもの、そして、使う人のところを満たしてくれるもの。そんな家具を一貫してつくり続けています。



ZONE 02  
016  
IDM  
TOKYO  
2018

**ZOUGANISTA di  
TAKAFUMI MOCHIZUKI**  
ゾウガニスタ 望月 貴文



Title: 木象嵌と共に蘇る古都フィレンツェのオブジェたち

古都フィレンツェでは今でもたくさんの古いモノが身近にあります。1700年代の木製収納扉、もう使うことの出来なくなった靴の木型。これらのモノに出会った時は埃にまみれて虫食いの穴だらけ。それを修復の技術で蘇らせて現代のインテリアでも馴染むように木象嵌のデザインを入れる。時の経過の魅力と新たなデザインの融合でコーディネートの際も独特のアクセントになります。デザインパーツを制作し古い柱や既存の家具などへの追加装飾も可能です。様々な種類の木目だけでつくられた不思議な世界観をぜひお楽しみ下さい。

ZONE 03  
017  
IDM  
TOKYO  
2018

CYUON ×  
Frank la Rivière Architects inc ×  
フランク・ラ・リヴィエレ・アーキテクト  
Hiramiya Co., Ltd  
ヒラミヤ



Title: Color Float

今回のインスタレーションのコンセプトは、「変形性によって、いかに新たな空間を感じさせることができるか」。楕円形状に配置して内部空間を感じさせながら、エレメントの形状や見る位置による変化、またカラーグラデーション、カラーバリエーションによって進歩性を表現し、さらには陰陽的なつながりもイメージ。空中に浮かぶ36本のエレメントは、折り紙の様に薄いアルミ板から三次元的な形へと加工し、角度によって四角、三角、それから星の様な3つの形が見取れる。表面に塗装を施した18色のクリアカラーは、自然が生み出すさまざまな色の一瞬一瞬をカラーバリエーションとして表現。一方、裏側にある、あいまいな18色のグラデーションは、地球から空に届く太陽の色彩変化が意図されている

ZONE 03  
018  
IDM  
TOKYO  
2018

SAN-EI ×  
株式会社三英  
TENDO ×  
株式会社天童木工  
FIELD FOUR DESIGN OFFICE  
株式会社フィールドフォー・デザインオフィス



Title: Allez!!

合言葉は『PLAY OFFICE!!』  
子どもだけでなく大人も笑顔にする遊具をオフィス空間に展開します。くるくるまわる羽の上で、複数人が、うちに向いたり、そとに向いたり。3つの羽にヒトが乗ることで生まれるユニークな動きが、創造性・生産性を高め、コミュニケーションを育みます。カチカチになった頭と体をほぐす、遊べるオフィスを創造します。タイトルのAllez!!はフランス語で『がんばれ！行け！』の意味。

ZONE 03  
019  
IDM  
TOKYO  
2018

SOL style  
ソルスタイル  
×  
Madoka.co.Ltd.  
まどか株式会社



Title: 氷から掘り出したような「ICE MELT SPACE」

今まで SOL style とまどか株式会社は「アイスメルトホテル」、「アイスメルト旅館」と、アクリルを使って「空想の中の世界」を様々なデザインし、実空間として製作し形にしてきました。今回、その核となる「アイスメルト」のコンセプトを具現化し、極厚のアクリルを高い技術力を用いてカット。キラキラと光が反射し、見るものに新しいイメージを与えられる、想像の「余白」をデザインしました。

ZONE 03  
020  
IDM  
TOKYO  
2018

tomita & co., ltd.  
株式会社トミタ  
×  
A&M co., ltd.  
株式会社エーアンドエム



Title: 「時を紡ぐ」

伝統と歴史を重んじ、大切に作られてきた大因州和紙の壁紙。その技術をいつくしみながら、一つ一つアーティストの新しい感覚でまた別のものに生まれかわり、昇華していく。新しい感覚と伝統技術が紡がれてまた新たなムーブメントになることを願って… 世界に発信しつづける TOMITAの和紙壁紙。空間にコミッションアートを手がけるアーティストたち。お互いが大切にしていることは何か。伝統と新しい事とは？ものづくりとアートとは何か。哲学とは何か。融合により新しく生み出されたワクワクを感じてみて頂けたら光栄です。

ZONE 03  
021  
IDM  
TOKYO  
2018

Rest Corporation  
TAKASHI SHIMONO  
株式会社レスト MAM HOUSE 事業部/  
デザイン 霜野 隆



Title: 「かたつむり」幼児用トイレブース

自然界に直線はなく、建築・インテリア界では、ほとんどが縦、横の直線の世界で生活しています。1年中のほとんどをそれらの空間での生活や活動をしていると、時々逃げ出したい。先人達の和室の床柱、書院そして、茶室は、それらを緩和し、和み、安らぎ、安堵と言った感覚を与えてくれる。幼児や子供達に、そのような空間があったらと思ひ、かたつむり型の幼児用トイレブースを提案します。ポリスチレン素材を使い、積層、曲げ、接着(融着)する事で、曲面の壁面/天井を作り、その組合せで、構成されている。今回は、3mm×60mmの素材を積層することで強度も確保。色彩、形状そして、厚さも自由にできる。幼児・子供用施設や又、水にも強いので、レジャー施設のシャワーブース、トイレ、間仕切り空間など又、災害時での避難ブースなど幅広い展開が、期待できる。

ZONE 03  
022  
IDM  
TOKYO  
2018

JAFICA uchieco  
JAFICA うちエコ研究会



Title: エシカルインテリア

国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている国際目標SDGs。私たちは、深刻化する環境問題などに全世界が取り組むという壮大なチャレンジに参加します。17のゴールのうち、「作る責任・使う責任」に着目し、活動を始めました。インテリアコーディネーターとしてエシカル(倫理的・道徳的)な=環境保全や社会貢献に配慮したインテリアの普及に貢献できるよう、改めてインテリア素材を考え、ひとつひとつのモノに存在する「選択のストーリー」をここに集め表現しています。

ZONE 03  
023  
IDM  
TOKYO  
2018

Ikkou+Re-Glass Labo(Nitto)  
イッコウ+リガラスラボ(株ニット)  
×  
ABC Trading Co.,Led  
株式会社エービーシー商会



Title: 雪花庵・Sekka An

ガラス作家、板橋一広と建築家・インテリアデザイナーの浦一也のコラボレーションによる、雪花硝子(再生結晶化硝子)のお茶室「雪花庵」開催期間中、お茶会を催す予定です。



ZONE 03  
024  
IDM  
TOKYO  
2018

interior coordinator's  
organization of nippon  
一般社団法人  
日本インテリアコーディネーター協会



Title: 『1.6㎡の至福』

北海道の名付け親でも知られる松浦武四郎の「一畳敷き」(1886年武四郎が東京の自宅に完成させた畳一枚の書斎)をリスペクトし、今、この時代に解釈する「1.6㎡」という限られた空間で、個人が自分に向き合い、人生を楽しむための空間「孤室」を提案いたします。日本人のミニマリズムや陰翳礼讃の美的感覚を大切に精神性に敬意を払い、和や洋の概念を取り扱った新しい空間を生み出したいと思ひます。

